



2 50年前の鳥取県立博物館アルバム

3 **企画展** 令和4年10月29日(土)～12月11日(日)

開館 50 周年記念 企画展

すべてみせます！収蔵庫の資料たち

4 **企画展** 令和5年2月11日(土・祝)～3月21日(火・祝)

開館 50 周年記念 企画展

安岡信義 1888-1933 — 近代洋画の黎明期を生きた画家

5 [自然] コラム 鳥取県立博物館の甲虫コレクション

6 [人文] コラム 鳥取城の戦いと地域社会

7 [美術] 新収蔵品紹介 ほりうちまさかず 堀内正和《Exercise 7》

8 ティラノサウルス展連動イベントの開催報告



鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM



写真は建設前の起工式。公設グラウンドが鳥取県立博物館に生まれ変わる。



開館当時の鳥取県立博物館の航空写真。右下には仁風閣。



開幕式の様子



「開館記念展として開催された
「郷土美術名作展」の目録



美術展示室(常設)



開館当時の常設展示入館券の半券。
学生・一般ともに50円だった。



自然展示室(常設)



正面玄関ホール(写真左側が受付)



喫茶室



歴史・民俗展示室(常設)



史料展示室。現在は学芸員等の執務室となっている。

企 画 展

開館 50 周年記念 企画展

すべてみせます！ 収蔵庫の資料たち

令和4年10月29日(土)～12月11日(日)

(主催) 50年展実行委員会



建設工事完成時の収蔵庫(昭和47年)

昭和47年(1972年)はどんな年だったでしょう。

1月に元陸軍兵士の横井庄一^{よこい しゅういち}さんがグアム島で発見され、2月に札幌オリンピックが始まり、浅間山^{あさまさんそう}荘事件^{しょうじ}が起き、3月には奈良の高松塚古墳^{たかまつかふん}で極彩色壁画^{きょくしき}がみつき、4月に川端康成^{かわばたやすなり}が自殺、そして5月には沖縄がアメリカから日本^{たなかかくえい}へ返還されました。6月には田中角栄^{たなかかくえい}が「日本列島改造論」を発表し、7月に田中角栄内閣が発足、8月には世界初のパーソナル電卓「カシオミニ」が発売され、9月には日中国交正常化、それを記念して10月にはジャイアントパンダのランランとカンカンが上野動物園^{じょうのどうぶつえん}に来園しました。大相撲の11月場所では鳥取県出身の琴櫻^{ことざくら}が優勝し、翌年も優勝して横綱に、12月の日本レコード大賞では本命だった小柳ルミ子の「瀬戸の花嫁」を破り、ちあきなおみの「喝采」が大賞となりました。

このように日本が大きく変化していた昭和47年。鳥取県では10月1日に鳥取県立博物館が開館しました。そして、今年10月1日で50歳になります。

博物館の根幹にあるのは、皆さんの共有財産である収蔵資料です。開館当初の収蔵資料数は約5万点でし



完成した収蔵庫に運び込まれる前の剥製資料(昭和47年)

たが、現在の収蔵資料数は約20万点にもなっています。これらの収蔵資料は適正に保管され、さまざまな調査研究に利用され、鳥取県を解明し、新しい知見を生み出してきました。

今回の企画展では、半世紀にわたり収集・保管されてきた資料を可能な限りすべてお見せしながら、資料収集と調査研究の50年を紹介します。当館は、自然、人文(民俗・歴史)、美術の3分野からなる総合博物館ですが、どのような資料がどういう目的で収集され、そして何が明らかになってきたのでしょうか。この機会にぜひご覧ください。
(学芸課 川上 靖)

■休館日：会期中の毎週月曜日

■観覧料：一般 / 500円(団体・前売・70歳以上 / 300円)

関連イベント 会期中の土日には、学芸員が展示室内に常駐します。

安岡信義という洋画家をご存知でしょうか。凛々しく端正な顔立ちと、信念を感じさせる力強い眼差しが印象的なこの画家 (fig. 1) は、明治期半ばに鳥取市に生まれ、東京美術学校で洋画を学んだ後に、主として赴任先の富山県で図画教師として奉職しました。公募展への出品を活動の主軸としなかったため、一般的には、“知られざる存在”と言えましょう。しかしながら一地方のミュージアムにとって、郷土ゆかりの美術家の仕事を調査研究し、適切に位置付けることは、重要な使命のひとつです。当館が開館50周年を迎えるこの機会に美術部門では、この安岡信義というひとりの画家に焦点を当て、初めてとなる回顧展を開催します。

久松山の麓、現在当館が建つ地域で幼少期を過ごした安岡信義 (1888-1933年) は、1907年に上京して、東京美術学校に入学しました。当時の同校では黒田清輝 (1866-1924年) や久米桂一郎 (1866-1934年) ら、いわゆる外光派の画家が教授陣として西洋画科を牽引しており、ほぼ同世代の同郷出身者である森岡柳蔵 (1878-1961年) や中井金三 (1883-1969年)、香田勝太 (1885-1946年) らが同科で学んだのに対して、安岡が在籍したのは、美術教員を養成するため同年に初めて設置された図画師範科でした。3年間の修学後、一度は鳥根県立杵築中学校に着任するも、画家の道を諦めず、2年後に再び上京して洋画研究に身を投じます。在学中を含めると9年に及ぶ東京での滞在期には、東京美術学校で教えていた岡田三郎助 (1869-1939年) や小林萬吾 (1870-1947年) に西洋画を学びました。なかでも再上京した際には、岡田が藤島武二 (1867-1943年) とともに創設したばかりであった本郷洋画研究所に学んだほか、安岡が図案を手掛けた石版画が1912年末に岡田の監修のもと刊行された『大正演藝』の表紙に採用されていることから、岡田との間にはとくに強い繋がりがあったものとみられます。

実際、とりわけ戸外の人物を描いた作品にみられる充満する陽光や柔らかな人体の描写は、同時期に岡田が描いていた表現を彷彿とさせます (fig. 2)。

安岡の活動期は、黒田や久米ら欧州に学んだ画家が展開した新しい素描教育が試行された時期と重なっており、安岡自身も確かなデッサン力を大いに発揮して、実際の人物や風景を数多く写生しています (figs. 3, 4)。また赴任先の富山ではヌードモデルによるデッサン会を初めて開催しており、同地で洋画壇が形成される端緒を開いたと言えるでしょう。本展では、同時代の日本近代洋画の黎明期を牽引した黒田や久米、岡田らの作品をご紹介しますと同時に、安岡信義という図画教師をつとめた画家の画業と活動を通じて、大正から昭和初期にかけて一地方画壇が形成される具体的な様相の一端をご覧いただきたいと考えています。

(美術振興課・友岡 真秀)



fig.1 安岡信義《自画像》1916年、板・油彩、鳥取県立博物館蔵

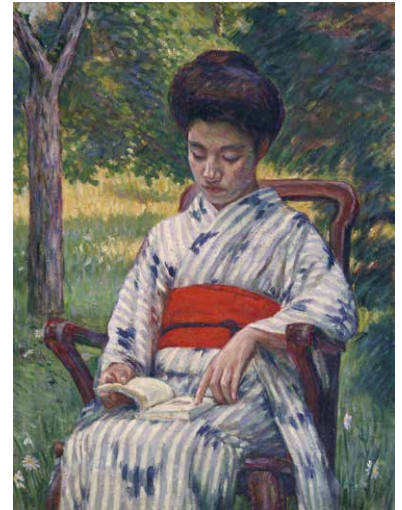


fig.2 安岡信義《読書(緑陰)》1915年、カンヴァス・油彩、鳥取県立博物館蔵



fig.3 安岡信義《加賀の潜戸スケッチブックより》1918年11月30日、紙・水彩・鉛筆、鳥取県立博物館蔵



fig.4 安岡信義《写生する男子学生(スケッチブックより)》1920年10月14日、紙・褐色インク、鳥取県立博物館蔵

figs. 1, 3, 4 の作品タイトルは、本展の開催に際して新規に付しています。

■休館日：会期中の毎週月曜日 ※3月20日(月)を除く

■観覧料：一般/700円(団体・前売・大学生・70歳以上/500円)

関連イベント 会期中の土曜日には、企画展関連イベントを開催予定です。

鳥取県立博物館の甲虫コレクション

今年で開館50周年を迎える鳥取県立博物館。この間、歴代の学芸員による調査や収集家の方々による寄贈などによって、数多くの昆虫標本が収集されてきました。現在までに5万点以上の昆虫標本が当館に収蔵されています。これら昆虫標本の中で、カブトムシなど体表が硬い仲間が含まれる“甲虫”は1万点以上が収蔵されています。今回はこの甲虫コレクションのうち、鳥取県内で採集された注目すべき標本についてご紹介します。



鳥取県立博物館所蔵の甲虫コレクション

絶滅危惧種 クロゲンゴロウ

近年は自然環境の悪化や気候変動など様々な要因で絶滅が心配される甲虫も増加しています。クロゲンゴロウもそのような甲虫で、鳥取県では絶滅危惧Ⅱ類に指定しています。かつては県内各地の池沼によく見られましたが、水質の悪化や外来魚による捕食などの影響で減少しています。当館には2個体のみ収蔵されています。



クロゲンゴロウ：
1993年10月、
鳥取市青谷町

鳥取県絶滅種 ハラビロハンミョウ

すでに鳥取県内から絶滅してしまった種もあります。ハラビロハンミョウは淡水が染み出すような砂浜に生息する甲虫ですが、海



ハラビロハンミョウ：
1974年9月、鳥取市浜坂砂丘

浜環境の悪化など、良好な生息環境の減少によって、鳥取県では近年絶滅してしまいました。

他県でも減少が著しいようで、豊かな海浜環境の保全が望まれます。当館には生息の証として、3個体の標本が収蔵されています。

国内外来種 ハラアカコブカミキリ

もともと鳥取県に生息していた甲虫が減少したり絶滅したりする一方で、近年、鳥取県に侵入して増加している甲虫もあります。ハラアカコブカミキリは日本国内では対馬のみに生息していましたが、1970年代から九州に定着しはじめ、その後日本各地で分布を拡大している“国内外来種”です。鳥取県では2016年ごろから確認されるようになり、今年は県内各地で多発しているようです。当館には2018年から2022年にかけて収集された標本が5個体収蔵されています。



ハラアカコブカミキリ：
2022年4月、
鳥取県立博物館周辺

41年ぶりの再発見 オオウバタマコメツキ

絶滅したと思われていた種が再発見されることもあります。オオウバタマコメツキは日本最大級のコメツキムシですが、近年国内で記録がなく、絶滅が心配されていました。ところが鳥取市内から再発見されたことが、専門家と県内の大学院生によって今年報告されました（鈴木・大生 2022）。中国地方では41年ぶりの発見です。良好な原生林が残る環境に生息するようで、豊かな自然に恵まれた鳥取県だからこそ生き残ってきた昆虫なのかもしれません。当館には1個体のみ収蔵されています。



オオウバタマコメツキ：
2021年8月、
鳥取市内

（学芸課 鶴智之）

引用文献

鈴木 互・大生唯統(2022) 中国地方から再発見されたオオウバタマコメツキについて、さやばねニューシリーズ, 46: 29-32.

鳥取城の戦いと地域社会

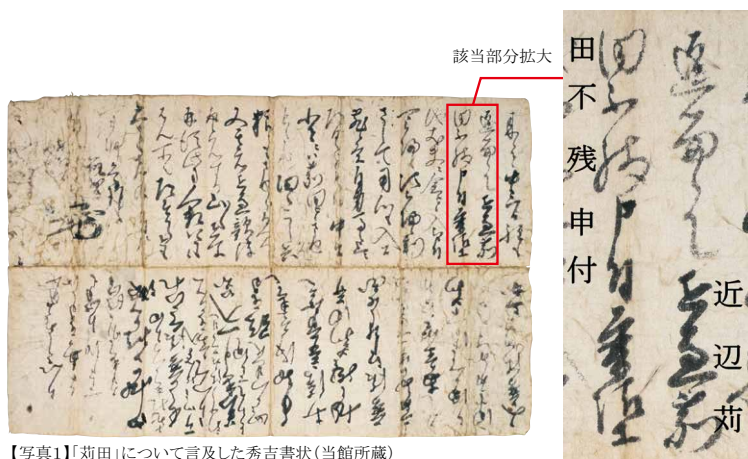
鳥取城から見た鳥取平野

昨今、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻により、多くの人命が犠牲になっています。また、その影響は、小麦の価格の高騰など我々の日常生活にも及んでいます。この様に、戦争は様々な形で私たちの社会や生活に影響を与え、明日への見通しを奪ってしまいます。

天正9年(1581)、毛利氏の家臣であった吉川経家^{きよかわつねいえ}の守る鳥取城は、羽柴^{はしば}(豊臣^{とよとみ})秀吉^{ひでよし}の兵糧攻めにより落城しました。因幡国(現在の鳥取県東部)の行く末を決めたこの攻城戦において、秀吉は積極的に城内の食糧を減らす作戦をとりました。当館蔵の羽柴秀吉書状(『新鳥取県史 古代中世1上』『秋田政蔵文庫所収文書』1号)【写真1】では、秀吉が部下に対して「近辺^{きんぺん}菟田^{うで}不残^{ふぜん}申付^{まうけ}(近所の(毛利方の) 稲をすべて刈り取るように命じなさい)」と述べています。この前年の天正8年(1580)にも秀吉が率いる1万人の軍勢が米「四千俵(約120トン)」を持ち去り菟田をしたため(吉川元春書状(『新鳥取県史 古代中世1下』『吉川家文書』1311号))、鳥取城内だけでなく因幡国全域で食糧が不足していました。

鳥取城落城を期に因幡国の大規模な戦争は収束し、因幡の社会は復興の兆しを見せます。鳥取県八頭町の新興寺^{えんめいかんのんどう}には、復興を象徴するような延命観音像が伝存しています【写真2】。この仏像には「因州八東郡新興寺之内、大法寺ノ本尊延命観音也、然者大乱ニ□□クタキ候ヲ城州之住人覚勢律師、当寺へ居住之時分、奉建立」という銘文と天正13年(1585)の年紀が記されており、戦争で「クタ(碎)」かれてしまった大法寺の本尊の代わりに、覚勢という僧侶がこの像を奉納したことがわかります。天正13年は秀吉と毛利氏の講和が成った年で、因幡の社会に神仏を想う余裕と、明日を生きる見通しが戻ってきたのかもしれません。観音像の表情には、凄惨な籠城戦を経て立ち上がろうとする因幡国の人々への慈しみが感じ取れるように思えます。

(学芸課 山本 隆一郎)



【写真1】「菟田」について言及した秀吉書状(当館所蔵)



【写真2】天正13年に施入されたという銘を持つ延命観音像(新興寺所蔵)

美術作品の制作は作家の孤独な営みと考えられがちです。しかし大学に籍を置く作家、そして巨大で重量のある作品を制作する彫刻家の場合、作品の制作にあたってはしばしば助手や学生も手伝い、共同作業と連帯感の中で作品が生まれます。

鳥取県立博物館では現在の伯耆町出身の彫刻家、辻晉堂（つじしんどう）について、これまで網羅的な作品収集を続け、多くの代表作をコレクションに加えてきました。辻が京都市立芸術大学で教鞭を執っていた時期、京都市立芸術大学は彫刻科の黄金期と呼ぶべき時代を迎えており、個性的な教師たちの下で多くの優れた作家たちが育ちました。興味深いことには教師たちは用いる素材も作風も全く異なりながら互いに大きな影響を与えあったのです。辻は陶芸家の八木一夫（やぎかずお）とともに陶土による彫刻、陶彫の実験を繰り返し、日本画家の下村良之助（しもむらりょうのすけ）とともに版画の制作を試みました。

堀内正和は彫刻科における辻の盟友であり、辻は1949年に京都市立美術専門学校（翌年に京都市立美術大学と改称、後の京都市立芸術大学）に着任すると、翌年には堀内を同じ大学に呼び寄せ、終生にわたる交友を結びました。「火の辻と水の堀内」という言葉が示すとおり二人の作風は正反対で、辻が直感と経験によって陶彫というほとんど先例のないジャンルに挑んだのに対して、堀内はマケットであらかじめ準備を重ねたうえで、順列組み合わせを実験するような理知的な造形で知られています。1950年代中盤に制作された《Exercise》というシリーズにおいて堀内は構成要素を線と面、それも円や方形といった単純な形にあらかじめ限定したうえで、タイトルのとおり、練習を繰り返すかのように要素を一つずつ順番に組み合わせて構成的な



堀内正和《Exercise 7》1956年 鉄 高さ895 幅600 奥行650mm

抽象彫刻の可能性を探りました。堀内の彫刻は量塊性やモニュメント性、あるいは人体への参照といった彫刻の常識をことごとく覆し、徹底的な思考実験として制作される点に特徴があり、この意味において辻同様に彫刻という営みの限界を探っているように感じられます。今回新たに収蔵した《Exercise 7》はこのタイプの代表的な作例であり、均整のとれた美しいフォルムとして実現されています。単に戦後の抽象彫刻を代表する優品がコレクションに加わったのみならず、ここから辻の仕事にも新しい補助線を引くことができるように感じます。

（美術館整備局美術振興監 尾崎 信一郎（おさき しんいちろう））

topic

ティラノサウルス展

～T.rex 驚異の肉食恐竜～

会期：2022/6/18～8/28

入場者数64,139人。
歴代最高記録達成！

Pick up!

話題になった夏の
企画展連動イベント



2022
6/20(月)

ティラノサウルス展を見る ティラノサウルス展

企画展会期中、特別にティラノサウルスの着ぐるみを着て鑑賞できる日を設けました。SNS等で拡散され話題となりました。

以下の公式SNSから、その他の画像や動画をご覧いただくことができます！



当館公式
Twitter



当館公式
Facebook



2022
7/16(土)

鳥取県立博物館公認 T-REX を目指せ！ ティラノサウルスコンテスト

鳥取県立博物館公認のティラノサウルスを決めるコンテストを行いました。フォトコンテストなども同時開催され、会場となった久松公園はティラノで溢れました。



鳥取県立博物館ニュース No.34

令和4年(2022年)9月26日発行

編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地

TEL 0857(26)8042(代)

FAX 0857(26)8041

URL <https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/>

E-mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp



博物館 HP



- 入館料：常設展／一般180(150)円
()内は20名様以上の団体料金
 - 開館時間：9時～17時(入館は16時30分まで)。
一部、19時(入館は18時30分)まで開館の土曜日あり。詳細はお問い合わせください。
 - 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日が休館日)
国民の祝日の翌日(土、日、祝日の場合を除く)
年末年始(12月29日～1月3日)
- ※具体的な休館日等は、ホームページでご確認ください。



- JR鳥取駅からバスで
 - ①100円/バス「くる梨」線コース「①仁風閣・県立博物館」下車すぐ
 - ②ループ麒麟獅子(土・日・祝日のみ)で「③鳥取城跡」下車すぐ
 - ④砂丘・湖山・賀露方面行「西町」下車、約400m
 - ⑤市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車、約600m
 - JR鳥取駅からタクシーで…約10分
 - 鳥取砂丘コナン空港から…鳥取駅行連絡バス「西町」下車、約400m
 - お車で…鳥取自動車道・鳥取ICまたは鳥取西ICより約15分
- ※当館駐車場21台駐車可能・満車の場合は県庁北側駐車場【無料】へ



株式会社モリックスジャパン

TEL 0857-23-3641

本社 鳥取市東町2丁目124番地
倉庫 倉吉市下田町8丁目 中興ビル3F
<http://www.morrix.co.jp/>



日本通運株式会社 鳥取事業所
TEL 0857-28-0202